

白木屋文書
A 1
2

摘 要	年 代	内 容	表 題
	文化四年 ~ 文久元年 (一八〇七) (一八六一)	店の由未、諸帳面の事、土地の事、仲間加入の事、 取引の事、慶弔の事、地震、火事の事、その他。	記 録
	数 量		

東京大学経済学部

記  
錄

Handwritten text at the top right edge of the page.

一 當所店

河主公の徳厚く且る先勅の

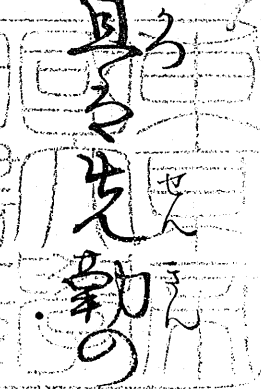
要仕成誠忠真像乃奇得と以敏昌の榮耀日

増月小倍き運皆先達舊功の餘也依て今記録

と冊乃其舊記成事は欲そ終く高

家におひてき高月小ゆの規矩ゆ守勵と

と事へ成りて自他を興ふ事



記さるるに其を知らず故に記さる

急ぎよむ情を懐く世に在人を

古事と詳めよ能く傳知す可の

荒増を記享年和年中に至る漸く分

きりて記す次て連綿とされ一置は

年隔年あつと終るに可なる可なる

金一希ハ長吏の急中ノ文體乃淺深

と撰るも手跡は善惡を以て凡後

流行の言葉と更も風雅の文章と用す

唯俗語平語を以て是易きを自要し

右の位は其時を折めよるも家

らに記されしと領するものなり

一 雅言能字と不可用事

一 諸事、町簿にお記をせし、解意事

一 不通、例儀を、お家の附置り、事

一 記録、お記有るもの、日記、お番、お記、お度

一 火事の、お記、お記録、お番、日記、お牒、お外、お諸、お帳、面

供、同く、持、出、し、事

右き條へ、意度、相、守、り、申、後、以上

坂本 治三郎

尚方 盛

村瀬 半三郎

麻生

文化四年丁卯三月

栗田 林三郎

是行 五

本店支配

森 長之助

日比野新助

笠原清助

前書之趣要相守の申者也

一 當舖店株式改正之事

抑當舖店も之を由字山中家名伊世屋を以て傳へてし事  
且平橋舊業に徳意を有る可恨し不承意にお成り平橋店  
劫奪等々遂にお滞相續難お成り平橋業を以て改度お後  
依り宝馬十庚辰年居宅株式讓請の店名前々を以て  
當 且那以津裏印苗字と森と有り市ヶ谷店と福  
屋と有り下平井岡の内村の大の字と居入  
且那津知名を以て別近江屋興市と改各目候也

時代

當舖支配  
本店支配

抑

一 規矩定法帳の慶の事

當店支配

本店支配

一 所給金おきの事

明治廿五年 本店より

本店

大谷三郎

本店

亀山久光

一 表去藏普請の事

安永元壬辰年夏

本店

本店

亀山久光

一 中土花普請の事

安永九庚子年秋

本店

本店

白柳長徳

一 且那寺段の事

是迄の浅竹神門跡寺中備忘事は右に可記有遠近に存  
此度お取巻戸柳喜長喜寺に依りて

本店

江龍金藏

本店

掃本金藏

一 仕入金加入の事

同五乙巳正月 巨細の預帳に在るは

本店

山下金藏

本店

掃本金藏

一 當地可買物之事

是持王是竹川町大和屋也所及各自可也  
天明六年十月書習所各目お志の極後見  
龜山久之廣 估界估る 本店の者とい當店  
あふらふとい

一 本店  
當店

川崎七之傳  
掃奉金之傳

一 見報類燒書積之事

同年三月廿五日午之刻 備考書乞より  
出火多し燒りり 本店公早東團の願下  
去外手傳とて 看るは男元日雇人  
是方勢甚は仙乎抄あり 成りし書積の  
二月五載の途に成就七月朔日世用也

一 本店  
當店

川崎七之傳  
掃奉金之傳  
堤 如七

此一時出飛他にお成り 大村昌字  
以免此等身并 拙灯致可及也

一 道悟様御逝去之事

同六月十七日 興市様御逝去は為成り身世さる也 二日

同慶元

一 本店支配元仕舞登振者并

兼 陳別物お初い事

一 本店  
當店

松山忠助  
掃奉金之傳

同七丁未年

一 備印大福帳之事

寛政二庚戌春お始巨細く多し備印帳者

一 本店  
當店

木田之藤七  
高橋大七



一 昌西順承行德邊法火之施物之事  
月三辛亥 檜 巨細八備京大福張記名

寺名 堀白丸寺  
當名 高橋 左中

一 濟給金段之事

月代

月四子子春

一 東去藏買取之事

月代

月年二月隣地買取新之席取

買取

一 森之助權御下向之事

月代

月年

一 表之助權御歸京身内時乞之文

寺名

月六甲寅年

當名

寺園 建隆

一 浄家督法弘内親候之事

寺名

月年十月 且權御總居等成

當名

寺園 建隆

武助權御所改名表之助權御法弘督

内儀 延和三月 同前月廿一日 白居后高

法弘又法親承有之當后高同前

見世編出世世承元法御酒并

内目錄双載仕合 寺后台生駒之物

寺后台上

御目錄

支配後居台 多々々々

出度世居手 多々々々

出度世居手 多々々々

献立之儀 多々々々

一 旦那様御禮之事

日七乙卯四月十日 以弘メ有之 見世

出見之儀 多々々々 一同 御禮 以目録以

裁仕以奉居台 生駒一折 多々々

幸居 加納忠七  
幸居 幸居忠信

御目錄

支配後居台 多々々々

出度世居手 多々々々

献立之儀 多々々々

一 鉄之助様御禮之事

日八丙辰六月廿四日 以親奉 以折奉

出見之儀 多々々々 一同 御禮 以目録以

幸居 山田保隆  
幸居 幸居忠信

御目錄

支配後居台 多々々々

出度世居手 多々々々

献立之儀 多々々々

一 勇治爺様御禮之事

日九丁巳閏七月十二日 以親奉 以折奉

出見之儀 多々々々 一同 御禮 以目録以

同代

行目録

支那陽居  
日九丁巳  
善福寺

日八酉

一 津陽居様法下向之事

日代

日八酉

一 麻布日ヶ宿佳地高了の事 日代

日九丁巳五月廿九日書寫

善福寺

津陽居様法下向之事

一 津陽居様法下向之事 日代

日九丁巳五月廿九日書寫

善福寺

津陽居様法下向之事

日代

行目録

支那陽居

日九丁巳

一 勇治齋様初の法下向の事 日代

日九丁巳五月廿九日書寫

善福寺

目録

支配店名  
見世名  
出立名  
出立名

一 考し即様御便し之事

字名 卷山七郎

月土己未二月十二日先例し通傳酒  
以目録に御付の本店台と翻し物言

字名 栗田林三郎

御目録載事

東信市松山通

一 仕人物領書是上領し通傳物言

同代

同土一庚申四月 御意に領し物言  
修し本店仕入の跡去道所寄列傳記

寄合附しお感の事  
此中本店二番後三合係蔵取扱

一 同風呂初出集事

同代

同し年種

一 當地町各目書取事

字名 三吉保藏

高杉之幸四郎

字名 栗田林三郎

以各目おさし振合市邊見番  
地借り各番にお感支配人  
人の張取おさし



一 葛西順兵衛行徳邊徳兵衛行徳為事  
同年種 巨細を大福帳に記す

同代

一 日記帳之事

同代

同之癸亥春始

一 福喜田地面引請之事

同時

同年二月十二日書付 送て本店持  
地前より引請可決り合口地を御貸并々書  
名目より致書引可決度支配元より頼り  
當店各目書付引可決度之御田林を備し  
估算帳を本店より右地面當店へ送り

手取書付上送り 引可決り

一 麻疹流行 身長家店より思ふより

本店

横岡茂富門

同年夏麻疹流行 本店借入元借書

當店

坂本信長

お加兼乃難儀 六月二日本店書付  
本野庄藩門取合より残持 本野庄藩門  
より本野庄藩門より本野庄藩門

一 當地の家守半高門 今より借入者

元之入 今より元之入

一 福喜田地面の家守權借入 今より本野庄藩門

元之入 今より元之入

一 當地の家守半高門 今より借入者  
本野庄藩門より本野庄藩門

一 悦喜帳并爲仕着物元額定法改正の事  
同年種取扱

本店  
常店

辻田利義  
坂本信房

一 市ヶ谷店石の事

同代

是迄は踏意と申す事なきは得先志なきは  
互に行来も不致を以て可支配元中居書置  
山口為平書置代より拾得の懸信原を以て  
行来致一申す事にお後等も致合は候事

一 當仲間通町下組お成の事

同時

同年三月通町組行来元分當仲間行司  
富田屋記常置代中集はる當町近邊  
高木辰吉平高置代致はる中一通町組

下組にお成仲間お成より控申す事  
如常店はる本店不申意はる外は  
懸意はる分内はるは是迄は富田屋記  
當町大仲間行来元分元中集はる  
依て是よりお成はる通町組行司元  
より下組にお成の諸事柄入等一切掛  
中切補由るは是迄は高木辰吉平  
亦二日一統承知し印致し候事

同二年十月廿一日富田屋記常置代分  
お成より仲間各自と号し大坂方手問  
年番の行司お勤り中條お成速に帳  
并行来箱出集はるは又十組船中集  
取違方申書通町組にお成りは常店

系家道中以其捨垣積令号外訪事也文字等通則能行也  
由德又均之勿論伊同是各通則能分樽役所也号上通也

### 仲間連名

富田町心岸

富田屋四郎兵衛

村雲町

白口 仁平治

元濱町

松坂屋治兵衛

新大坂町

伊世元治兵衛

元濱町

松坂屋佐吉

同町

松坂屋藤八

同町

同 小八

富田町

大里屋亦兵衛

同町

近江屋兵衛







是上同九月四日棟上ケ身生鯛物君上六本店より奉殿。  
其の同十月朔日五日後世用ノ身属ノ傳者流五人  
子供五人ノ遺レノ誠ノ所代奉聞ノ大船名也巨神名  
日記ニある也

一 福喜田地面類焼普請ノ事

同時

同時類焼ニ付家守權平傳口内見舞合言上遺レノ  
同九月十八日普請ノ所為リ十一月十日成就身見分お海  
家守權平新免引物ニ付後家お道更代合言上遺レ  
此一右普請合言上本店合言上

一 馬喰町店類焼普請成就世用ノ事 同時

同時ノ類焼見舞お松板我牧傳ノ尺板 同日丁卯二月七日  
棟上ケ身生鯛物此ノ進方口奉殿其ノ同日朔日也現  
聞身君ノ尻甲子供ノ手傳之ニ日右月朔二日ハ君流  
斗ッ遺レ 此一山奉支配 先々傳及時代也

一 町々買持ノ事

同代

近年豊能お徳米道所下並ニ身或カ可世町人金子  
廻リ不里親身町人カ方所お為ノ致出情弟買持一段自  
文化三兩 寅十月十九日持役所より以觸為之 程又各名反

右に列挙する如く外回し各筆及斗入の筆を格別にと不  
及此等之由凡回つたを當面ハ悉く見事可成儀頼頼  
同土月十八日本町傳賣屋花白積道同丁卯酉日  
右に代金 沖公儀概か以下ノ金をさし

一 沖通金之事

同代

同二百五十月 世上通金の世話として町人とし内番  
以沖目鏡の沖用金は高仰り付以て擧げ所 三  
口備へ付同右の日本店々々の金庫各所出の御金銀  
中上且早橋店市ノ金店留置の店馬場町店右四折  
同店々々中上ノ沖通金も別方と通し付



白紙長巻式三の書 沖用し伝授演説  
圓思更加と存し出情の心積り上  
沖公儀おびして沖備をよひしりたる其方々  
思世に花あふきの顔焼雅懐中 店中申合  
奇持の心違事 沖奉行所 高橋家  
りて家間々々々い得金 店支取人  
せし書と存せしひふり

此店支取人の名はひふりて  
沖通金之事

右の店門合加入金と書出言し可成儀頼頼  
ありて其儀とあはれ

一 書翰集之事

同代

同四丁卯春始

一 道隆居士様十年忌之事

同代

同平五月十七日於東北寺織信（たけのくに）の信書ありしに有る者  
精多あり是より當店より佛（ぶつ）多あり候し由

一 當店地代の赦免之事

同代

同平上旬十日當店より免る由論述ありし由

諸君の御覧に今年の上旬に宛お物よりある  
上旬十日の信書致書ありし件に是迄より方銀白の事  
之事半減の事候し由

一 従文化系森永正五子歳述記録詳し相取不申依之荒増也  
灰之祀申小

一 當所店所類焼之事

倉本惣兵衛

文政一巳丑三月廿一日外神田作久同町五共前  
車店見附前店空町店所類焼當所店依依當所之事  
所商所類之事

一 奥松建助之事

因代

11年

一 當所店所類焼之事

高畑吉清

天保五甲午歳二月七日同日見附前店空町店  
所類焼之事依之灰中沙土並小右神田所  
出火由店成之五在之在當所所類焼所申小

一 當所店任長所終言之事

橋本武吉

天保十二乙丑月是近大村惣之権所名所  
大村清三前様所名目相取申小

一 奥松建助之事

因代

系富元物殿金買請中小同年八月

家守善也

一 福海町 地南 庄名 前 移 事

同代

同年十一月 蓮大村 共 市 権 部 名 部 又 今 殿 大 村 満 部 権

許右目 改

一 神田 豊大 寺 地 部

同代

一 十四 外 八月 系 比 沖 部 殿 金 買 請 中 小 家 守 茂 部

一 小石川 白山 前 所 地 部 事

同時 同代

家守 羊 部

一 貸借 相 對 所

一 十 組 同 部 名 目 取 放

同代

一 地 代 借 貸 直 下 子

同年 三月 片 作 出 小

一 富 津 庄 頼 院

同代

天保十八甲 辰七月廿二日 田所 町 湯 部 名 部 又 今 殿 大 村 満 部 権  
案 外 一 家 長 家 是 止 家 守 佐 部 事





— 京都清用金

— 同

— 大村寅三郎様清用金

— 奥様清用金

— 安町派

— 見附初遣見込奉



吳國船澳下加之事

嘉慶六年三月... 吳國船澳下加之事... 嘉慶六年三月... 吳國船澳下加之事... 嘉慶六年三月... 吳國船澳下加之事...

李店 谷村 沐齋 苗店 諸瀨 嘉齋

盛園氏死後首級被入

同 年 月

同 代

宮尾氏死後福本氏後見被改改作小事

宮尾氏死後福本氏後見被改改作小事... 宮尾氏死後福本氏後見被改改作小事... 宮尾氏死後福本氏後見被改改作小事...

同 代

同 年 月 日 長壽寺下在... 同 年 月 日 長壽寺下在... 同 年 月 日 長壽寺下在...

同 年 七月 日 魏... 同 年 七月 日 魏... 同 年 七月 日 魏...

同 年 八月 秋... 同 年 八月 秋... 同 年 八月 秋...

吳國船澳下加之事

同 年 六月... 同 年 六月... 同 年 六月...

同 代

同 年 六月... 同 年 六月... 同 年 六月... 同 年 六月... 同 年 六月...

平新海川水代橋中流

右海新川水代橋中流

相仍云此岸人數相檢中

吳世船退帆波乃舟

同七月廿八日長湯表

信惟方或為涉值

休因候。信世不袖

地海三月

朱四斗昇位

乃係九五元外

信亦務修通

梅井公康

公方様藥沖

同年七月廿一日

同代

町中の子

同八月前中珍

同代

津屋店新

同八月廿五

同代

同八月廿五

神杓渡渡

同九月廿九

同

同代



山平庄交配糖  
中村利廣  
久保在島  
三月

同代

白雲寺補史新類  
二月廿竹川卷  
三月

同代

長壽寺史院  
三月  
日記  
三月

同代

先代山中氏百年  
法事  
三月廿七年

同代

道緒撰  
三月廿七年

四月  
日記

大地  
三月廿日

同代

東北寺大新  
三月

同代

清用金  
三月

同代

平庄交配  
谷村  
三月

同代

三月

香林像 泚法 丁酉年忘  
嘉永七年七月

一 大宮三所像 泚下  
三橋法像

同八月 九月廿日泚後寫

一 山平石像 寫泚法像個珍

同九月

一 家貝平石像 泚後寫

一 至危庵玉具

同十月

平石  
泚水  
精勝  
寫

同

同

同

同

一 東國大史表

日記 泚後寫

同

年号改

安政元下改 十二月廿日

同

一 神田多所分史

同 立大寺所史新  
三月廿日所泚  
泚後寫  
泚後寫

同

一 三幅射板 泚後寫

同二月

同

一 山平石像 泚後寫

同二月

同

山沂辰

類院

三月五日拜  
三月六日拜  
三月七日拜

同代

山沂辰

類院

世宗皇帝御製

新校所

見此

安政元年三月朔日

山印店通塞

同代

之石之後日由橋印店持取各山中... 三月九日中止... 類院... 安政元年三月朔日

山印店通塞... 類院... 安政元年三月朔日... 山沂辰... 類院... 三月五日拜... 三月六日拜... 三月七日拜... 同代... 世宗皇帝御製... 見此... 安政元年三月朔日... 山印店通塞... 類院... 安政元年三月朔日... 山沂辰... 類院... 三月五日拜... 三月六日拜... 三月七日拜... 同代... 世宗皇帝御製... 見此... 安政元年三月朔日

一 拾六人  
一 可安

日中... 山沂辰... 類院... 三月五日拜... 三月六日拜... 三月七日拜

清水... 拾六人... 可安... 山沂辰... 類院... 三月五日拜... 三月六日拜... 三月七日拜





江戸大地震二六代將軍御年



安政三祀年十月二日亥刻一程震來事云語難述勢之猛烈  
地震十一宮ノ御宇中昔々震動中ノ一途ノ勢ノ之捨テ東ノ地  
出ノ并一途抄道ノ事後忘却中事有之日一宮ノ御宇  
地震ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事  
為御宇土產ノ事昔々抄道ノ事一途抄道ノ事  
一途抄道ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事  
御宇抄道ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事  
御宇抄道ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事

為一途抄道ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事  
御宇抄道ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事  
御宇抄道ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事  
御宇抄道ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事一途抄道ノ事

古事記ノ用日記書後記  
由氣治  
久保田平右衛門  
精原雪舟  
谷村良吉  
所長云々

一 諸方ノ御宇

月年十月二日大地震在抱地面迄入 地蔵方 龍行

精原雪舟

日記書後記  
一途抄道ノ事  
御宇抄道ノ事  
御宇抄道ノ事  
御宇抄道ノ事



川崎市石室店



安政三紀十二月山本屋敷忠兵衛之右衛門退任海別  
申右忠頼因申安政三紀三月三日具付三月新祝意  
有申一信ハ申付申付申付申付申付申付申付申付  
三月朔日申付申付申付申付申付申付申付申付申付

古手家洋行印付金

一拾五貫目 申付金

一三貫目拾目 申付金

一七拾七貫目 申付金

一三拾八貫目拾目 申付金

一三拾八貫目拾目 申付金

通中村中村中村中村中村中村中村中村中村中村中村

中村中村中村中村中村中村中村中村中村中村  
山浦孫兵衛

山印持佛至道庵上住持

所長云々

安政三紀二月廿二日 花書後札

大風雨三年地家因形

目代

同年六月廿五日大荒也石見中村中村中村中村中村中村中村中村中村中村中村  
川中津原 水代持中村中村中村中村中村中村中村中村中村中村中村

住居守役

同年六月廿七日 水代持中村中村中村中村中村中村中村中村中村中村中村  
中村



一 淨川慈旨指為晉進

同代

同年九月十五日金部日書寫在御

一 且那樣名病

同代

同年十月廿二日市部了云作神田明神

目息三勅言由新行禱及所札月書指

所部了云 同三年三月廿五日以後氣氣成

市部了云 亦成云

一 至道菴常燈收科

同代

幕方強泥 夜之形 燈收科 店中書

為安政丁巳年相后自是歲春奉信而高信

一 唐詩撰屏風被買請

同代

同年九月

一 古子組

同代

同年七月廿一日 館所及所之役也加件 官人官者前親平江

古子組 後各目之相之 元來了通所也

先保地之 谷田

...

一 吳岸地地面焼爰書請事

日本書紀卷之五十四 孝德天皇紀  
聖武天皇御宇 聖武天皇二十一年

癸亥年二月十日戊刻在廣野天皇御宇  
聖武天皇二十一年二月十日戊刻在廣野天皇御宇  
今言其地之燒爰書請事 地代天皇二十一年七月八日  
聖武天皇二十一年六月五日

廣野天皇  
御宇  
癸亥年

一 諱仲道逸採以逝去事

同辛九月十六日逝去事 同日廿日刻在廣野天皇御宇  
同日廿日刻在廣野天皇御宇  
同日廿日刻在廣野天皇御宇  
同日廿日刻在廣野天皇御宇  
同日廿日刻在廣野天皇御宇  
同日廿日刻在廣野天皇御宇  
同日廿日刻在廣野天皇御宇  
同日廿日刻在廣野天皇御宇  
同日廿日刻在廣野天皇御宇  
同日廿日刻在廣野天皇御宇

廣野天皇  
御宇  
癸亥年

一 同辛九月一日逝去事

同日廿日刻在廣野天皇御宇

一 同辛九月一日逝去事

同日廿日刻在廣野天皇御宇

一 同辛九月一日逝去事

同日廿日刻在廣野天皇御宇

一 同辛九月一日逝去事

同日廿日刻在廣野天皇御宇

同日廿日刻在廣野天皇御宇

同日廿日刻在廣野天皇御宇

同日廿日刻在廣野天皇御宇

一 日本橋所居類焼普請成就具

車馬 横尾又吉書  
原長云也

安政八年十一月十日夜に舟を御田相寄りて火に取られし事、橋を焼失す。  
此後焼日、若き人々の言、*Shimizu* (此書) 十部、*Shimizu* (此書) 十部、  
御田所居、舟を御田相寄りて火に取られし事、橋を焼失す。  
此後焼日、若き人々の言、*Shimizu* (此書) 十部、  
御田所居、舟を御田相寄りて火に取られし事、橋を焼失す。

御田所居

杉林 杉林

松林 杉林

青島 杉林

建所 杉林

具所 杉林

御田所居

杉林 杉林

青島 杉林

建所 杉林

具所 杉林

具所 杉林



一 小判を交付判別以別々増減

以事限候迄少額  
明治六年乙未五月廿七日

中山忠吉書

一 横濱海軍工廠

目次

日辛六月朔日 諸君へ之旨  
和國張見元一書  
交易和國金銀通用少額

一 地面先古園地

目次

同辛七月五日 相見金書  
和國張見元一書  
交易和國金銀通用少額



一 大村宣三郎様所お督致し候儀

同辛十一月廿六日 江戸先陣首尾能く終り候  
松島郡 河越 松島 松島 松島 松島  
松島 松島 松島 松島 松島 松島  
同辛十一月廿六日 江戸先陣首尾能く終り候  
松島郡 河越 松島 松島 松島 松島  
松島 松島 松島 松島 松島 松島

御之由

松島郡 三連

一 市酒 三升

一 藤子 三升

石巻

松島

市目録

二石 五石

外 松島

五石

一 松島 三連

三連

石巻

別表 三石  
三石 三石  
三石 三石  
三石 三石

一 歳上納金 松島 三連

同代

同辛十二月二日 市酒 三升 松島 三連 秋中 三石 三石 三石 三石 三石 三石

一 市酒上納金 三石

同代

一 年号 文久元年 改二月廿六日

一 信色 三石 三石 三石 三石 三石 三石

同代

同辛三月 松島 三連 三石 三石 三石 三石 三石 三石

同辛三月 松島 三連 三石 三石 三石 三石 三石 三石

同辛三月 松島 三連 三石 三石 三石 三石 三石 三石

一 本銀所結存左引取之率。

同代

同年日月支取金平之書之持店之金引取之率  
亦右近江屋支取之率行一人 合也

一 算加上金

千里上細

同代

同年七月十七日細

去年十月十七日為之率作也

同年成日月廿日為之率之數

